

## テーマ 「豊かに生きるために」 ～国語科にできること～

### 1 テーマ設定の理由

「豊かに生きるために」必要なことは何なのか。そしてそのことに国語科として貢献できることは何なのか。わたしたち人は社会生活を営む動物である。自分以外の人々とコミュニケーションを取り、自分が属する社会の中で自らの居場所を確立していかなければならない。その際もっとも必要なものは自分以外の人に自分の持つ情報を送る力、そして他者からの情報を分析する力、加えて他者の思いを受け入れる力ではないだろうか。そして、これらの力のもっとも根底をなすものが言語であることは疑いようのない事実である。言語は目前にある物事や事態を認識する上でも、考える上でも、その考えを自分以外の対象に送る上でも、また自分以外の人々の感情を知る上でも、もっとも根底をなすものと考えている。

昨今、インターネットなどの相手の顔の見えない情報交換が急激に増えてきている。このような情報交換では、情報の送り手は自分の世界にのみ目を向け何の相手意識もなく発信していることが多いのである。中には、自分の思いを述べることに終始し、情報交換とは到底呼べないようなものもある。この傾向は顔を合わせての情報交換にも見られる。互いに自分の言いたいことだけを言い、自分の関心のある話題だけに反応する。同じ空間にしながら、コミュニケーションしているとは言い難い状況もしばしば見受けられる。そして問題なのは、このような状況をコミュニケーションしていると思っていることである。

上記のような状況の中で、昨年の「成果と課題」にあるように昨年の研究では「相手意識」について課題を残したと感じている。また豊かな語彙の獲得とその使用の場を体験すること、そして昨年に引き続きコミュニケーション力を鍛え、自尊感情につながる自己評価を研究していくことも「豊かに生きるために」必要なことであり、国語科として貢献できることではないかと考える。

### 2 本年度の研究について

国語科では、「豊かに生きるために」～国語科にできること～というテーマを設定した。このテーマに従い、つけさせたい力を定めた。

#### (1) 語彙の力

辞書の意味だけでなく、経験に裏打ちされた語彙を保証していくことが、「豊かに生きるために」国語科に求められていることではないかと考えた。実際の学習場面でのさまざまな活動（経験）を経て、語彙に対する関心を持たせ、日々の生活の中で語彙力を培っていかせたい。

#### (2) 構成する力

#### (3) 分析する力

豊かな語彙を基盤に、適切に言葉を選択し自らの状況や考えを適確に他者に伝えられる力、他者の言葉を自分の経験を踏まえて取り入れる力を向上させる学習場面を設定していきたい。

本年度は、「豊かな学び」（本校総論）に沿った学習過程を構想することに取り組んでいきたい。

#### ① 個性を拓く学び

個性を拓くとは、他者と関わりながら自分なりの考えや表現を作り上げ、自分の学びへと深めていく資質や能力を培うことである。国語科では、語彙力の向上を常に念頭に置くのはもちろんのこと、多くの文章に接する機会を大切に、意見を発表する場、さまざまな種類の文章を書く機会を意識的に設定していきたい。そのような場で他者の意見を聞くこと、他者の評価を受けることを通じて、自らの内なる可能性に気付かせ、自己の学びを深めさせたい。

## ② 社会につなぐ学び

社会につなぐとは、他者と共通の規範意識を身につけ、周囲の人々と協調しながら社会の一員として生活を送る資質や能力を培うことである。テーマ設定の理由にも述べたように社会の一員として生きるためには自らの考えや状況を他者に正確に伝えられなければならない。同時に他者の意思や感情を受け止められることも必要な力である。そのためには生きた言葉を自分のものに行っていること、それらを適切に選択することが必要になる。学習場面で様々な思いの詰まった作品に出会い、多くの意見を聞き、考え、表現する場を設定する工夫が必要となろう。

## ③ 世界と結ぶ学び

世界に結ぶとは、国際社会において「自ら成長しながら」他者と「共に生きる」ために必要な基礎的な資質や能力を培うことである。自国の言葉で自分の考えや意思を世界に発信していくこと、自国の文化に対する知識を持つことは、国語科の使命であることは言うまでもない。異なる考えや文化に触れる機会を意識的に設けていきたいと考える。自国の言語、考え、文化を大切にする態度を養い、同時に異なる考え、文化も尊重できる国際人の基礎を育てたい。

# 3 成果と課題

本年度、国語科では「豊かに生きるために」～国語科にできること～というテーマを設定し、語彙力の充実、構成する力、分析する力の向上をめざしてきた。これら三つの力は、読解力、コミュニケーション力など国語科の学習の根幹をなすものだと考える。国語科では、生活のすべてにおいてことばに対する感性を持つことを常に生徒に働きかけてきた。生徒の中には、自らの読書活動の中で、会話の中で、あるいはテレビやラジオの視聴の中で新たなことばを発見したり、既知のことばの意味の幅を広げていったものもいた。しかし個々の生徒において、どうしても個人差を認めざるを得なかった。

また、本校研究主題に掲げた3つの視点に沿って、さまざまな学習場面を考えた。これから3つの視点に沿って成果と課題を考えていきたい。

## ① 個性を拓く学び

国語科では、多くの文章に接する機会、意見を発表する場、さまざまな文章を書く機会を意識的に設定し、生徒ここの可能性に生徒自身に気付かせていこうと試みた。さまざまな試みをする中で、生徒が自分にはこんなこともできる、あんなこともできたという達成感を味わう場面は持てたと考えているが、それがその場限りのことになってしまうこともあったことが反省される。

## ② 社会につなぐ学び

先に述べた3つの力の充実・拡充を常に念頭において取り組んだ結果、自己の言語認識力がより発展的な思考や感情を形成し、さらにコミュニケーション活動において適確な意思伝達や他者理解を促すこととなったと思われる。

実践例にもあるように、クラス内での小さな社会の中で互いに意見を交換し、互いに認め合う力を養い、そして彼らを取り巻く社会の中での居場所を探っていく力となるだろう。

## ③ 世界と結ぶ学び

国語科における世界に結ぶ学びでは、自国の言語、考え、文化についての理解を深めること、異なる考え、文化を尊重する態度を育んでいくことととらえる。

そのため伝統芸能に親しむ時間を設けたり、他国の文化にふれる時間を大切にしてきた。実践 必修教科1年生のように、他国の文化を学ぶことで昔も今も互いに文化的交流をし、影響を与えあっていることを引き続き示していきたい。

## 実践1 必修教科1年生

### ① 題材 漢文

### ② 題材について

中学校で漢文を学ぶと言うことで、もっとも重要なことは高い興味・関心を持つことである。しかし、残念なことに漢文への興味・関心は高いものではない。その大きな理由として、授業での扱いが少なくなっていること、漢文に慣れ親しんでいないこと、また日本語における漢文調に慣れ親しんでいないことなどが考えられる。そこで本題材のように既に日本語に溶け込んでいる故事成語を漢文として学ぶことと、視覚面と聴覚面から授業を行うことで漢文への関心・意欲を高められると考えた。加えて、一年生で故事成語や漢詩の数多く朗読することで漢文の世界により強い親しみを持つことで、将来において漢文をより深く学ぶときの手助けになるものと考えた。

以下に、本校研究主題「豊かな学びで個を育む」および教科主題「豊かに生きる ～国語科にできること～」に沿って授業の構想を述べる。

前述したとおり、漢文への興味・関心は生徒の中では非常に低いものである。そんな中で漢文への興味・関心を高めることは、新しい知識を知る喜びを知ることにつながる（個性を拓く学び）。また、授業内において互いの意見を交換・発表することで、他者との違いを認め合える力がつく（社会につながる学び）。

そして、何よりもわが国の文化に大きな影響を与えた故事成語・漢詩を学ぶことで、古典世界で文化を理解しようとしたかつての日本人の気持ちを理解させたい。さらに、現在も当然続いている世界中の国々との文化の交流の中で、日本も文化を伝える側にもなっていることに気付かせたい。（世界と結ぶ学び）。

本時間の学びのサイクルは、授業計画の位置としては【故事成語を理解するため】の習得サイクルになる。ここで習得したことを次時以降で故事成語を深く学ぼうとする習得サイクルや探究サイクルへとつなぐのである。

### ③ 学習の目標と評価規準

|               |   |
|---------------|---|
| 学習の目標<br>評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 故事成語の基礎知識や世界観を学び、漢文内での様々な言葉に理解を深め、互いの意見や感想を班で発表しあい、漢文に興味を持つ。</li> <li>・ 日本も文化の発信する立場になっていることに気付く。</li> </ul> |
| 関心・意欲・態度      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に漢文で学んだことを班で発表している。</li> <li>・ 訓読文を読もうとしている。</li> <li>・ 学んだことをワークシートに書き込んでいる。</li> </ul>                  |
| 読むこと          | ・ 漢字の持つ漢文としての意味を正確にとらえて、理解している。C－E  |
| 言語事項          | ・ 故事成語、漢詩などに含まれた語句に興味を持っている。(1)－ア   |

### ④ 学習計画（単元構成表） 全8時間（本時4／8）

| 学習課程                     | 学習の中心             | 教師の働きかけと学びのサイクル  | 観 点                  |
|--------------------------|-------------------|--|----------------------|
| 漢文の基礎知識と世界観<br><br>(1時間) | ・ 漢文の世界に興味・関心を持つ。 | ・ 様々な写真や資料を見せたり、知識を与えることで、漢文の世界に興味・関心を持たせる。<br>『習得』 『探究』 | 言語<br>(1)－ア<br>関・意・態 |

|                         |                               |   |                         |
|-------------------------|-------------------------------|---|-------------------------|
| 返り点の学習<br>(2 時間)        | ・ 返り点（レ点と一，二点）を学び、問題に取り組む。    | ・ 練習問題を解き、返り点の働きを理解させる。『習得』<br>・ 互いの班で練習問題を作らせ、レ点をより深く理解させる。『習得』 『探究』         | 関・意・態                   |
|                         | ・ 互いに作った問題を交換して、取り組む。         | ・ 練習問題を解き、返り点の働きをより深く理解させる。『習得』 『探究』  | 関・意・態                   |
| 故事成語の学習<br>(3 時間)       | ・ 矛盾について学ぶ。                   | ・ 矛盾の意味と成立を意欲的につかもうとする態度を養わせる。『習得』<br>・ その成立を理解させる。『習得』                       | 関・意・態                   |
|                         | ・ 蛇足について学ぶ                    | ・ 矛盾を使った短文の例を書かせる。『探究』<br>・ 蛇足の意味と成立を意欲的につかませる。『習得』                           | 読 C－エ<br>関・意・態          |
|                         | ・ 断腸について学ぶ                    | ・ 蛇足を使った短文の例を書かせる。『探究』<br>・ 断腸の意味と成立を意欲的につかませる。『習得』<br>・ 断腸を使った短文の例を書かせる。『探究』 | 読 C－エ<br>関・意・態<br>読 C－エ |
| 漢詩の学習<br>(朗読)<br>(2 時間) | 「春暁」「涼州詞」「廬山の瀑布を望む」の朗読の準備をする。 | ・ 各班で一つを選ばせ、次の時間に朗読させる。『習得』 『探究』<br>・ 朗読の工夫をさせる。『習得』 『探究』                     | 読 C－エ<br>関・意・態          |
|                         | ・ 朗読発表会                       | ・ 朗読の工夫を伝えられるようにする。『探究』   | 読 C－エ<br>関・意・態          |

#### ⑤ 本時の目標

漢文独特の意味を読み取り、そこから知ったこと感じたことを互いに発表しあい、漢文世界になれ親しむ。 (関心・意欲・態度)

現在の日本は、文化を発信する側にもなっていることに気づく。 (関心・意欲・態度)

#### ⑥ 本時の展開

|    | 学習活動   | 教師の支援  | 備 考      |
|----|--|--|----------|
| 導入 | ・ 漢字テストを行う。<br>・ 前時までを振り返る。<br>・ 本時の目標を確認する。 | ・ 相互採点をきっちりと行わせる。<br>・ 漢詩の世界観を思い出させる。<br>・ 本時の目標はプリントする。 | ワークシート 1 |

|             |  |   |  |
|-------------|--|---|--|
| 展<br>開      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラえもんの漢文版を配布して、単語からタイトルを予想する。</li> <li>・気付いたことや感想を発表する。</li> <li>・矛盾の白文と訓読文を見比べて、気付いたことを発表する。</li> <li>・矛盾の書き下し文を黙読する。</li> <li>・音読をする。</li> <li>・他の故事成語を班で考えて、発表しあう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・思ったことを素直に書かせる。</li> <li>・中国語発音で歌って、ヒントとする。</li> <li>・漢字から全体の意味を想像できることと日本の文化が他の国に影響を与えていたことに気付かせたい。</li> <li>・返り点の工夫について気付かせたい。</li> <li>・一度、範読する。</li> <li>・矛盾の内容を詳しく話す。</li> <li>・内容を理解し、矛盾の意味をつかませたい。</li> <li>・日本語の中に、日本語として漢文が息づいていることに気付かせる。</li> </ul> | <p>ワークシート 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文は難しくないというイメージを持たせる。</li> <li>・漢字から意味を考え出せることに自信を持たせる。</li> </ul> <p>黒板に掲示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先人の苦労を想像させたい。</li> <li>・黙読は、頭の中で発音しながらするという気持ちを持たせる。</li> </ul> <p>ワークシート 3</p> |
| ま<br>と<br>め | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元シートに書き込む。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文に親しめたかどうかに留意させる。</li> <li>・世界との文化の交流が今もなお続き、日本は発信する側にもなっていることに気付かせる。</li> </ul>   | <p>単元シート</p>   |

## ⑦ 結果と考察

まずは実践構想に沿って考察したいと思う。

### ・個性を拓く学び

予想以上に新しい知識に対しては高い興味を示した。故事成語の成り立ち、生活習慣や服装などの知識、また掲示した写真に対して、いずれにしろ、今回の授業で子供が想像以上に漢文の情報に対して高い興味を示したのがわかった。ただし、子供の意欲に引っ張られて、映像面・生活習慣など国語科として中心となる知識以外を与えることが中心にならないように気をつけなければならない。

### ・社会につながる学び

相互に意見を発表する力が高い。しかし、交換する力となると気になる点が残った。人の話を最後まで聞けないことである。以前から気になっていた点であったが、今回は特に新しい知識を与えるたびに「それって〇〇やろ?」「それ何?」「僕はそれ知ってる～」など反応を声に出してくるのだ。高い意欲は評価できるが、最後まで話を聞けないのは、やはり問題である。発表時や話し合い時のルールを徹底していくこと、自分たちでそのルールを守れるような状態を生徒が作り上げられるような授業作りが課題である。

### ・世界と結ぶ学び

ドラえもんの中国歌詞を扱ったり、故事成語や漢詩を日本語訳と比べさせることで、古典世界の文化を理解しようとしたかつての日本人の気持ちを擬似的に体験させることはできた。ある漢字が日本

語で意味するところを自力で見つけたときの喜び方を見ていると、「それが、昔の日本人の気持ちだよ」と言えば即座に理解できるだろう。ただし、深いところではなく新しいことを知る喜びという感じである。また、日本が文化を伝える側にもなっていることには素早く気づけている。ただし、受け手である諸外国の様子や感情を考えられるようにできなかった。今回の授業の中心であり、伝える側・伝わる側の両方を押さえてこそ成功といえるので、今後の課題としていきたい。

次に、今回の授業での具体的な取り組み方法として選んだ「具体的な情報」による刺激について考えた。

一つ目は、「視覚的な情報」である。『万里の長城』『泰山』『洞明湖』『黄龍』『九塞溝』などの写真である。これらは、漢文の世界が浮かばない生徒や漠然としたイメージしか浮かばない生徒に具体的なイメージを与えることができる。(もちろん提示した資料の幅の中だけであるが…)

二つ目は、「聴覚的な情報」を加えることである。従来の訓読文による刺激だけでなく、漢文(中国語)の発音を聴覚情報として加えたのである。

三つ目は、より身近に感じる情報を選ぶことである。残念ながら漢文の多くは今の生徒にとって身近なものではない。そこで生徒にとって身近なもので漢文化されているもの、つまり中国語になっているもの(今回はドラえもん)を導入部に使って、生徒の関心や興味を高めようとしたのである。

私自身も三つ目などは雑学的な扱いで授業に取り入れてそれなりの好反応を得てはいた。しかし、自分の中でこのような授業展開はあくまでおまけであり本筋ではないと思っていたので、きっちりと授業案に取り入れたことはなかった。しかし、生徒の意欲を高める導入という点に絞った授業案として意識し、授業に取り入れたわけである。

漢文の授業全般の感想を見ると「漢文の勉強をして、熟語に興味を持った。特に二字熟語に興味を持ったのは初めて!」「中国語になると発音も変わるのに驚いた」「漢文には、生活に役立つものがあった面白い。」「大分 漢文のことが分かってきた。なかなか知れば簡単なもので、漢文で書いている主題歌などを当てるのは面白いし、結構わかりやすい。意外と身近なものなのかも?」「中国の詩は、実は中身の濃いストーリーが詰まっているんだなぁと思いました。」などが高い意欲や関心を感じられるものであった。

また、感想だけでなく私から見ても授業での活動がいつも以上に積極的であった。例えば、この時期以降、毎回行っている漢字テストのことを気にする感想が極端に増えた。また、研究協議会で指導主事の先生が「配布した書き下し文と訓読文を比べて指で追っている生徒」を見ておられる。彼の感想を見ると「返り点の問題をといてると楽しい。」「中国の景色ってすごい!」などと書いてあった。漢詩の朗読でも、感情を込めるための話し合いは、いつも以上に熱が入っているように感じられた。実際に漢詩の朗読は日頃の音読よりもよい雰囲気だった。

以上のことより、結果として関心や意欲を高めるのには成功したと考えている。しかし、協議会でも指摘されたように「中国語で書かれた身近な歌」の扱いは一步間違うと【中国語の授業】になりかねない危険性を含んでいる。扱いには十分に気をつけなければならない。今回の「ドラえもん」はたまたまこの学年に適した人が多くいただけであって、学年の様子によっては別のものを探さなければならない。

また、今回は自分自身も甘えたところがあり、きっちりとした理論をもって組み立てられなかったのもので、この導入から本題へつなげる授業展開が見えにくかったことも大きな課題である。

単元『漢文』（一年生） 単元構成表と評価規準表

| 学習課程                   | 時 | 学 習 活 動                       | 基礎・基本評価基準(B)                  | 十分に満足できると判断できる状況(A)               | 努力を要する生徒への手だて(C)                           | 観 点                     |
|------------------------|---|-------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|--|-------------------------|
| 漢文の基礎知識と世界観<br>(1時間)   | 1 | ・漢文の世界に興味・関心を持つ。              | ○漢文の世界に興味を持つとしている。            | ◎漢文の世界が今もおもしろいと感じている。             | ▼写真資料とで興味をわかせるように支援する。                     | 言語(1)ーア<br>関・意・態        |
| 返り点の学習<br>(2時間)        | 2 | ・返り点（し点と一、二点）を学び、問題に取り組む。     | ○返り点のルールをそれぞれを理解しようとしている。     | ◎返り点が複合した場合を理解している。               | ▼し点、一、二点をそれぞれ指導する。                         | 関・意・態                   |
|                        | 3 | ・互いに作った問題を交換して、取り組む。          | ○自分で、自分の理解度を理解しようとしている。       | ◎自分で例の問題とは違う物を作るうとしている。           | ▼期間指導で基礎的な部分を再度振り返らせる。                     | 関・意・態                   |
| 故事成語の学習<br>(3時間)       | 4 | ・矛盾について学ぶ。                    | ○漢文の世界に興味を持ち、漢文を積極的に学ぼうとしている。 | ◎漢文の学習を通して、文化の交流とは何かと言うことを考えている。  | ▼日頃使っている言葉の中に、漢文の世界の言葉が多いことに気づくようにアドバイスする。 | 関・意・態                   |
|                        | 5 | ・蛇足について学ぶ                     | ○漢文の内容を積極的に理解しようとしている。        | ◎漢文の学習を通して、日本の文化の中での漢文の重要性を考えている。 | ▼現代語訳を読み、内容に興味を持つようにアドバイスする。               | 読 Cーエ<br>関・意・態          |
| 漢詩の学習<br>(朗読)<br>(2時間) | 6 | ・断腸について学ぶ                     | ○漢文の内容の心情を理解しようとしている。         | ◎漢文の学習を通して、内容の心情として理解しようとしている。    | ▼現代語訳を読み、心情を考えようようにアドバイスする。                | 読 Cーエ<br>関・意・態<br>読 Cーエ |
|                        | 7 | 「春曉」「涼州詞」「廬山の瀑布を望む」の朗読の準備をする。 | ○情景、心情を込める工夫をして読もうとしている。      | ◎漢文の世界を思い描いて、読もうとしている。            | ▼口語訳をよく読み、自分のイメージを持たせる。                    | 読 Cーエ<br>関・意・態          |
|                        | 8 | ・朗読発表会                        | ○自分の感じたことを積極的に発表している。         | ◎自分の心情を他の人に効果的に伝える工夫を意識している。      | ▼気持ちを読み込むことの楽しさをわかってもらい、意欲を持たせる。           | 読 Cーエ<br>関・意・態          |

国語ワークシート【漢文1】

前回までの復習  
返り点について・・・

※ 二種類の返り点を学んでいます。その二種類を書こう。

※ 漢文の世界について（印象に残っていることを2つ以上4つ以内）

※ ※ ※

今日の目標・・・  
漢文の世界に親しもう。  
文化の交流のおもしろさについて考えよう。

漢文の世界

（世界観を思い浮かべやすくするために・・・）  
万里の長城  
・全長二四〇〇キロメートルにも及ぶ大城壁。  
北方からの騎馬民族の侵入を防いだ。

揚子江や黄河  
・嵩々と流れる中国の大河。  
人々の生活だけでなく、様々な文化の元となったであろう。

西湖、洞庭湖などの湖  
・景勝地として人々に親しまれ、詩などにもよく歌われる。  
奇岩、奇山、名山  
・日本人にとっては特に目に残りやすい景勝地である。

九寨溝・黃龍  
・不可思議な景色。自然の凄まじい力を感じる。  
知識・考え方

・陰陽五行説  
太極→二極→四象→八卦

木→火→土→金→水（相生） 火→金→木→土→水（相克）  
・風水  
・地理的な  
・交通的な  
・風土的な  
・挨拶  
・習慣

※ 現代的なものではなく古典的なものであるが・・・

国語ワークシート【漢文3】班活動

※ ◎ ① 自分の意見だけでなく、他の人の意見もメモとしてとろう。  
※ ② 他の故事成語やことわざで漢文を通して伝わってきたと思う物を  
あげよう！  
（各班で5つ以上上限なし）

※ 故事成語やことわざを考えてみて、感じたこと。

※ 漢文への気持ちはどんなに変わったか？

※ 文化の伝わり方で自分なりにわかったこと。

国語ワークシート【漢文2】

※ 次の漢文は、ある日本の番組の主題歌を訳した  
ものです。その番組を答えよう。  
わかっても、声には出さないこと！

※ 右側にヒントを書き込もう！  
這種事情真好 可以完成真好

這種夢想 到底有没有  
所有所有的夢想都能 實現  
用不可思議的百宝袋來實現

我想要在天空自由的飛翔  
那就是竹蜻

阿阿阿 我最喜歡  
阿阿阿 我最喜歡

阿阿阿 我最喜歡  
阿阿阿 我最喜歡

阿阿阿 我最喜歡  
阿阿阿 我最喜歡

了了



## 実践2 必修教科3年生

### ① 題材 「メディア・リテラシー」

### ② 題材について

現在、わたしたちの周囲には言語・非言語を問わず多くの情報があふれている。子どもたちはそれら情報の海に浮かんでいる。しかし、子どもたちは彼らを取り巻く情報に対して無防備である。活字になったり、映像として公共の電波に乗ったものはすべて完全な事実だと信じる傾向が強いように思われる。しかしそれらの情報は誤報であることは少ないにしても、故意でなくても一面的であったり、十分でないことも多いのである。そこで本題材では、情報がどのように編集されてわたしたちの元へ届くのかを知り、身近な広告に隠された戦略を体験させたい。

以下、本校研究主題「豊かな学びで個を育む」および教科主題「豊かに生きるために～国語科にできること～」に沿って授業の構想を述べる。

#### ①個性を拓く学び

#### ②社会につなぐ学び

先にも述べたように多様化するメディアに包まれて子どもたちは日々を過ごしている。現在の社会ではメディアと無縁でいることは不可能である。それゆえこれらのメディアに対する知識を持つことはよりよい社会生活を営む上で不可欠なことと考える。本時の活動では、班で他者と関わりながら一つの広告を作り上げていくこと、その活動を通して他者との見方・考え方の違いを感じることに、他者と協調すること、自らの学びを深めること、そして自ら表現し発信する力を養いたい。また他の班の広告を見、評価すること、評価されることを通して、自らの学びを振り返らせたいと考えている。

#### ③世界と結ぶ学び

今回の授業は、国際社会を直接意識したものではないがメディア・リテラシーの学びは国際社会で生きる上で必要なことである。また、自国の言葉で自らの考えや意思を表現することは、国際社会で認められる第一歩であると考えている。

### ③ 学習目標と評価規準

| 学習の目標<br>評価規準  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアを批判的に読もうとする。</li> <li>・多くの情報を取捨選択して広告を作ろうとする。</li> </ul>                   |
|----------------|--|
| 関心・意欲・態度       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアに関心を持って接している。</li> <li>・広告の構図やキャッチコピーに関心を持っている。</li> </ul>                 |
| 書 く            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の表現に接し、自分の表現を豊かにしている。(カ)</li> </ul>  |
| 読 む            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「メディア・リテラシー」で論理の展開の仕方をとらえている。(イ)</li> <li>・メディアを批判的に読み、自分の意見を持つ。(エ)</li> </ul> |
| 言語知識・理解・<br>技能 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中の語句の意味・用法に注意している。(イ)</li> <li>・指示語や接続詞、助詞や助動詞の働きに注意している。(カ)</li> </ul>      |

④ 学習計画（単元構成表）

| 学習過程                | 学習の中心                | 教師の働きかけと学びのサイクルについて                                   | 観点   |
|---------------------|----------------------|---|------|
| メディア・リテラシー<br>(4時間) | ・メディアに関心を持つ。         | ・複数社の新聞記事、雑誌記事を比較して読ませ、メディアについて考えさせる。<br>(探究)         | 関心   |
|                     | ・漢字・語句の意味を学習し、教材を読む。 | ・新出漢字・難読語・語句の意味の学習をさせ、教材を通読し文章の組み立てを考えさせる。<br>(習得)    | 言語読む |
|                     | ・内容を読み取る。            | ・接続詞等に注意をさせ、内容を読み取らせる。<br>(習得)                        | 言語読む |
|                     | ・メディアを批判的に読む。        | ・学習を通して、メディアを批判的に読もうとする姿勢を持たせる。<br>(習得)               | 関心   |
| 写真をよみとく<br>(2時間)    | ・写真に題をつける。           | ・写真に何が写されているか、どのように写されているかで、どのような解釈が可能か考えさせる。<br>(探究) | 書く   |
|                     | ・写真にメッセージをつける。       | ・写真に言葉を付与することで、写真内容の意味が変わること<br>を理解させる。<br>(探究)       | 書く   |
| 広告を作る<br>(3時間)      | ・広告を作る。              | ・身近な題材の写真を使い、キャッチフレーズを考えさせて、<br>広告を作る。<br>(探究)        | 関心   |
|                     | ◎広告を検証する             | ・他班の作った広告の工夫と意図を考えさせることにより、<br>広告の戦略に気づかせる。<br>(探究)   | 書く   |
| 広告を調べる<br>(1時間)     | ・実際の広告を調べる。          | ・実際に家に入る広告を持ち寄り、広告の持つ戦略を調べさせ<br>(探究)                  | 読む   |

⑤ 本時の目標

- ・他の班の広告を見て、不足している情報などを指摘することができる。(書く力)

⑥ 本時の展開

| 学習活動   | 教師の支援  | 備考                            |
|--|--|-------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に制作した広告を検証担当の班に渡す。</li> <li>・広告を見て、不足している情報はな<br/>いかなど話し合いワークシートに記<br/>入する。</li> <li>・広告を黒板に張り、検証した班が質<br/>問する(3分)。</li> <li>・制作班が説明する(5分)。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間に三つの班の広告を取り<br/>扱う。</li> <li>・制作班に、検証班の質問を受け<br/>て答える準備をさせる。(1分)</li> </ul> | <p>ワークシート1</p> <p>ワークシート2</p> |

|   |  |          |
|---|--|----------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・検証班・制作班の発表を聞いて、他の班もどう思うか発表する。</li> </ul>    |  |          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・広告を制作し、また他の班の広告を見ることで気付いた点をまとめる。</li> </ul> |  | ワークシート 3 |

## ⑦ 結果と考察

まず教科書本文「メディア・リテラシー」の学習に引き続き、実際の広告を提示しながら広告の作られ方、ねらいなどの学習をした。広告の作り方の学習を進めるにあたり、携帯電話やスポーツ飲料の広告を取り上げた。これらの広告は興味津々であったが、各会社のキャッチフレーズはよく知っていたが、広告の隅に小さく表示されているただし書きには初めて気付いたようで「この広告、毎日のように見てたのに」と驚いたり、「ぼくら、広告を作る人の思うツボにはまってたんやな」との声が出たりした。さらに学習を進めていくと、「食パンの5倍のビタミンD」というキャッチフレーズに「そもそも食パンにそんなにビタミンあんの？」と疑問を口にする生徒も出てきた。また広告がその商品を買う層に向けて作られていることにも気づき、自分たちにとって興味を強く引かれる広告とそうではない広告があることに納得したようすである。

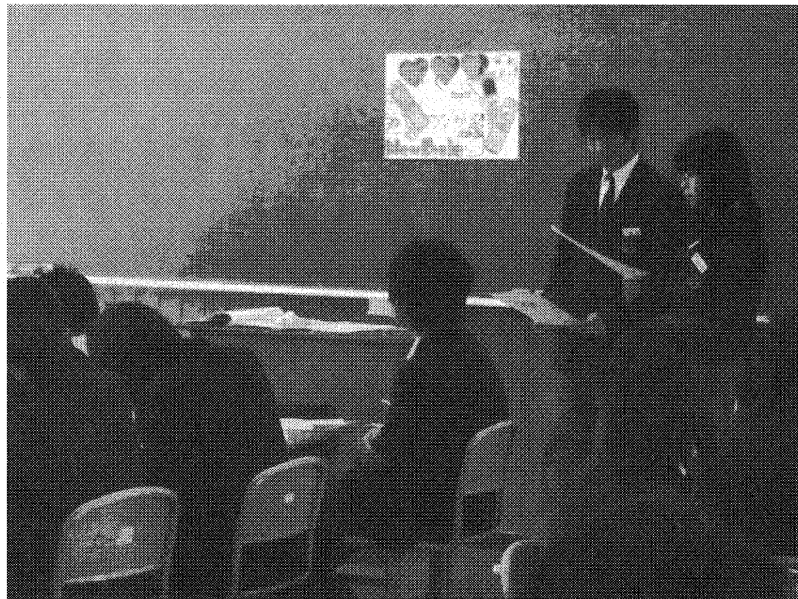
携帯電話を含め多くのメディアに囲まれている生徒たちはメディアのない生活など考えられないと口をそろえる。そのメディアとのつきあい方を教科書文より広げて学習できたことは、良かったと思う。特に広告作りをしたことが、広告を批判的に見る助けになったように思われる。以下に生徒の感想を記す。

- ・すぐにキャッチフレーズを見るようになりました。
- ・今までは広告を見ても何とも思わなかったけど、実際作ってみて、これだけの苦労が必要なのがわかった。
- ・どれが見出しなのか、何を伝えたいのか、考えられるようになりました。
- ・広告を見るのは簡単そうに見えて簡単ではないと思いました。事実を見抜くのはなかなか難しいと思った。
- ・細かいところまで見て、小さな表記にも気をつけて、わたしたちの班のような「新駅完成」とオブラートに包んでいるのにも、ちゃんと注意してみていくようにしようと思いました。
- ・将来、販売業に就くとなれば、この経験を活かしたいです。
- ・良いところ、悪いところを見て、これだと欲しい買いたいと思うものだけで買うようになった。

しかし発表の中には相手意識の希薄な班もあったことは反省したい。また広告作りの枠組みをもっと明確に示し活動できれば、論点がより明確になったであろうことも反省点である。

単元 「メディア・リテラシー」 (3年生) ★単元構成&評価標準表★

| 学習過程                | 学習活動   | 基礎・基本評価標準(B)  | 充分満足できると判断できる状況(A)   | 努力を要する(C)生徒への手だて   | 観 点                          |
|---------------------|--|---|--|--|------------------------------|
| メディア・リテラシー<br>(4時間) | <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の雑誌記事・新聞記事を比較して読む。</li> <li>教材文を読み、メディアについて知る。</li> <li>メディアを批判的に読むとうとする姿勢を持つ。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の記事を比較して読むうとしている。</li> <li>接続詞に気をつけて、教材文の内容を理解している。</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎複数の記事を比較して読み、その違いを考察している。</li> <li>◎接続詞の働きを踏まえて、文と文、段落と段落のつながりを考えながら内容を理解している。</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>▼具体的なことばを示し、違いを実感できるよう配慮する。</li> <li>▼接続詞の使い方に注目させる。</li> </ul> | 関心<br>言語<br>(1)イ・カ)<br>読む(イ) |
| 写真をよみとく<br>(2時間)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>写真にことばを付与することによって写真内容の意味が変わることを体験する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎写真に題を付けたリ、メッセージを入れたりしている。</li> <li>◎他の人の考えた題やメッセージを読み、考えようとしている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎写真の内容や構図にふさわしい題を付けたリ、吹き出しにことばを入れる。</li> <li>◎他の人の題やメッセージを読み、写真の内容が変わることに気づき、考えを深めている。</li> </ul> | ▼机間指導でアドバイスを<br>をする。   | 書く(カ)                        |
| 広告作り<br>(3時間)       | <ul style="list-style-type: none"> <li>写真を使い、広告を考える。</li> <li>広告を見て、その工夫・問題点に気付く。</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎班で協力して広告を作っている。</li> <li>◎広告を見て、工夫や問題点に気付く。</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎広告のねらいを正確につかみ、より効果的な構図・表現を考え、広告を作っている。</li> <li>◎広告の工夫・問題点に気づき、広告のねらいを理解している。</li> </ul>         | ▼キャッチフレーズの付け方を提示する。  | 関心<br>書く(カ)                  |
| 広告を批判的に読む<br>(1時間)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>冬休み中に収集した広告の工夫と問題点を考える。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎実際の広告を見て、工夫や問題点に気付いている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎今までの学習をもとに、実際の広告の戦略に気づき、問題点を指摘している。</li> </ul>   | ▼実際に例示することで、気づきを促す。  | 関心<br>読む(エ)                  |



# 商品キャッチフレーズを考えよう。

( ) 班  
( ) 組 氏名 ( )



あなたの班の商品の魅力は アロココリー (保)

- ・アロココリー
- ・栄養素 ... ビタミンC、カルシウム
- ・かぜ予防・しみ・そばかす (有効)

商品キャッチフレーズに入りたい要素は

- ・ビタミンC、カルシウム が豊富
- 他野菜の何倍 → 吸収できて、とれる (摂取できる)

あなたが考えた商品キャッチフレーズは

- ・多くのビタミンC (レモン2個分!!)
- カルシウムを摂取しながら吸収率もUP!!
- ・雄大な大地に育てられた 栄養素たっぷり (ビタミンC、カルシウム、その他栄養素) のアロココリー
- 想像 (やさしい心) 大切.
- それ以外 (心) とも思うこと (お母さん)

あなたの班に商品キャッチフレーズは何になりましたか。列挙して選んで、書いてください。

## 制作ノート

( ) 班  
( ) 組 氏名 ( )

新しい商品の商品名は (その商品名にしたねらいは)

未来を建てる土地 ぎこちないように...

会社の社名は (その社名にしたねらいは)

エーデルワイス (呼びやすいので)

あなたの班の広告で

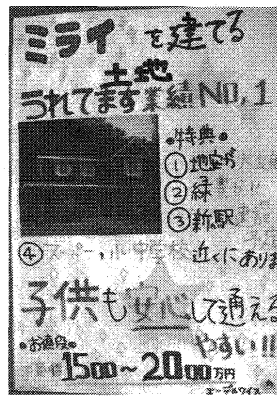
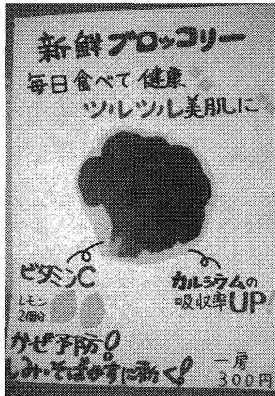
○強調したこと (そのために工夫したこと)

駅ができること  
治安良、緑豊かで静かな環境  
スーパーetc ちかくに3車  
小中学校が近くにあり  
→ 子供も安心して通える

○情報としてはあるが、

広告に載せなかったことあるいは目立たないように載せたこと。

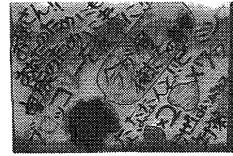
駅の完成は10年後  
現在一番近い駅、衣料品、本、レンタルビデオ  
などの店は徒歩30分。



検証ノート 1

プロコリー

( ) 組 ( ) 班 氏名 ( )



1 商品キャッチフレーズは何ですか。

「今が旬 俺たちの青春」

2 商品キャッチフレーズ、商品名、説明で、うまいなと思うところはどこですか。そのどういところがよいですか。

旬と青春をかけているところ

3 広告が伝えていることは何ですか。

ビタミンCが豊富  
かぜ、しん、リカス対策  
プロコリー100%、レモン20%とじゃがいも70%の栄養がある

4 広告に不足していると思われる情報は何か。

レモン100%にビタミンCがどれくらい入っているのか?  
値段がいくらか?

検証ノート 2

制作班

( ) 組 ( ) 班 氏名 ( )

1 質問をメモし、答えを考えよう。

○ 「つながる」の意味がわからない  
画像の配値が高い

つながるというのはほしい電波の事だと思えると思うので  
妻が変な人。

○ 「メールがどれくらいいいのかわからない」  
「インターネットがどれくらいいいのかわからない」  
どれくらいいいというのはある程度で、どうでもいいや  
うまいと思わせるのがいいです。でもそれだけじゃダメ  
じゃないようにした方がいいのも理由の一つです。

○ 通話の機能は昇上してないのか

通話の機能は特に昇上してないわけではないけど、つな  
がるようになってたのでそれをアピールしました。

2 良いと指摘された点。(班のねらいと同じであったか)

画像の配値が見やすい  
キャッチフレーズがわかりやすい  
どこがよいのかわかりやすい

3 広告の強調した点、弱めた点。

強調 新しいという点、つながる点、「メール」「3D」

弱 「インターネット」  
→ 値段、どうすごいのか

検証ノート 3

( ) 組 ( ) 班 氏名 ( )

制作班・検証班の話を聞いて考えたことを書きましょう。

トマト

の広告について

広告はシンプルで、上手に作れていると思いました。

でも、具体的にビタミンやミネラルの含まれている量がよく分からないので、  
している所がよく分かりました。

携帯

の広告について

付属のメモをみかけると、3Dに見えるというのは新しくおもしろいと思いましたが、  
インターネットやメールはもう少し具体的に分かりましたよかったです。  
新感覚というのが、目立っていて新鮮な感じがしました。

の広告について